

# エコ名刺で広がる人の輪

阿部社長が考案したエコ名刺が大きな広がりを見せている。手にしているのは原料となるバナナの繊維の束



## バナナのくみ

数多くの人たちの生活に変化を与えた名刺がある。札幌・豊平区にある丸吉目新堂印刷では、ザンビア共和国のバナナの茎を原材料にした「エ

# northstyle

Hokkaido Sports and Life Style

www.northstyle.jp

northstyle.jp provides comprehensive sports and life style information.

第2、4木曜掲載

119

丸吉目新堂印刷社長

◆阿部晋也(あべ・しんや)1971年(昭46)1月28日、札幌市生まれ。札幌真栄高から札幌大に進学。93年に丸吉目新堂印刷に入社し、96年8月に代表取締役就任。趣味はサーフィン、最近はランニング。家族は妻と長女。

「エコ名刺」の商品化を昨年4月から開始した。生みの親は社長の阿部晋也さん(41)。「これまでバナナの茎は捨てられていました。これで紙をつくれれば、違法伐採も減らせ、雇用機会も増えると思ったのです」。現地では30人の雇用が生まれ、1日1人がたった給料が3倍になった。

エコ名刺は03年から取り組んできた。ペットボトルや間伐材などを活用。環境保全への姿勢と、阿部さんの人柄から和が広がっていく。札幌だけでなく、東京や福岡などにも波及。約3万人が使用する人気商品となった。

子供のころから自然が好きだった。祖父の影響で海にあって、小学6年からサーフィンを始めた。情熱は冷めることなく、ハワイの大学への進学を希望するほどだった。

札幌大を卒業後、富山県の会社に就職したが、疑問を感じて9カ月で退社。長野県で家具店へ転職しようとしていた直前に、印刷会社を営む父から札幌へ呼び戻された。「知らないところに入る飛び込み営業は最初は怖かった。それが少しずつ楽しくなってい

たんです」。父の会社で営業の仕事を覚えていった。

当時は企業が受注する伝票の印刷業務が受注の大半を占めた。パソコンの普及などに伴い受注が徐々に減っていき、発想を変えた。「人がやわつけないことをやる」とエコ名刺を製造。今ではバナナのほか原材料も15種類に増え、収益の35%を占めるまでに成長した。ザンビア以外にも拠点を模索し、その活動は世界を股に掛ける。

## 3万人が使用

昨年から「エコ名刺交換会」も始めた。3カ月に2回程度の割合で、名刺を使用している顧客にコミュニケーションの場を提供している。「エコ名刺でつながって友人になれば解決できることもあります。3万人が10万、100万人になれば助け合いの心が広がる。みんなの幸せになろうな仕事でしたいですね」。インターネットだけではなく、「つながり」がそこにある。

【上野耕太郎】

※動画サイト「ノーススタイル」(http://www.northstyle.jp/)では、阿部さんの記事や過去の連載が閲覧できます。

阿部晋也さん(41)